

Minuma Shun Sai

見沼・旬彩

2025-26年冬号 vol.35

石井実生園 「蠟梅まつり」



▲石井克司さん

見沼区南中丸75番地
TEL.048(684)2781



花木の生産農場である石井実生園では、冬の時期になると約300本のロウバイが園内を黄色く彩り、甘い香りが漂い、一足早い春の訪れを告げています。同園は社長の石井克司さんが「美しく咲いた花をただ散らせてしまうのはもったいない」との思いで、38年前から生産農場を一般に無料開放しています。蠟梅が見頃となる2026年1月中旬から2月上旬にかけて「蠟梅まつり」が行われます。園内の蠟梅の栽培本数は約1,000本で、うち約300本を蠟梅まつり会場でご鑑賞いただけます。開園時間は10時から16時です。入園は無料です。園内では、蠟梅の切枝などを販売しています。

冬のやさい料理

白菜のミルク煮

白菜の外側を使います。水洗いして水気を切り鍋の蓋をして弱火で煮します。柔らかくなったところで、トロミをつけるバター、小麦粉を追加、良く熱を通しながら、更に薄切りカブ、ツナ、エノキ、ミルクは煮詰めない程度に混ぜながらブイヨン、塩、コショウで、味を調えます。冬に必要な栄養素を短時間で、たくさん摂ることができるのが利点です。



地域人ネットワークの菜の花プロジェクト

菜の花農業体験教室

2008年から毎年4月1日、県とNPO法人地域人ネットワークのホームページにて「菜の花農業体験教室」の参加者募集を行い、1年を通じいろいろな作物の栽培体験と、特に広い面積で菜の花栽培を18年間継続してきました。



▲ナタネの種蒔き

月まで2m近くに育つ緑肥「ソルガム」を栽培しこれも畑に漉き込んでいます。

更に炭素固定化できるよう「バイオ炭」も漉き込めば「ナタネ栽培がCO2削減に」となるかも？。



▲満開の菜の花

資源循環型農作物菜の花

なぜ「菜の花」なのか？それは種蒔から収穫までの栽培のほか、脱穀、精製、菜種油製作までの体験により農作業を知ってもらうこと、菜種油は食用以外にもバイオフェューエルとして化石燃料の使用を減らし、油の搾りかすは畑の肥料として使われる資源循環型の農作物と知ってもらうことです。

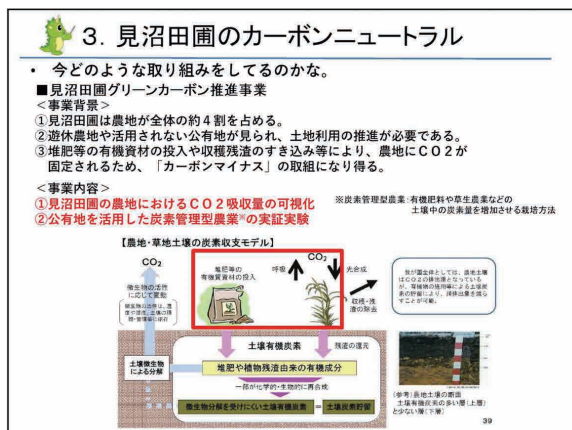
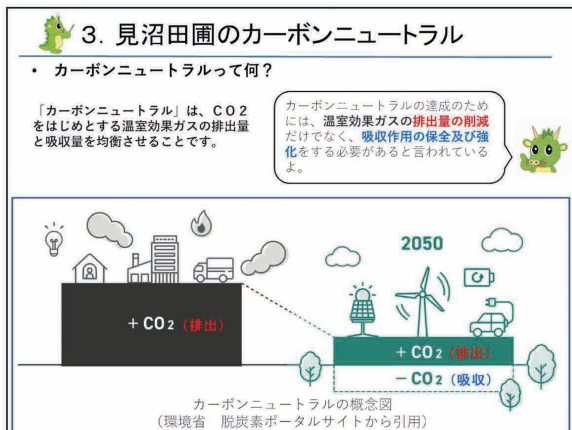
ナタネ栽培がCO2削減に？

昨年さいたま市の出前講座で「見沼たんぼのグリーンインフラの取り組み」の講演会を行いました。講演の中で興味を持ったのは、農地に栽培物の残渣を漉き込むことでCO2が固定され「カーボンマイナス」の取り組みになり得ること、見沼田圃の農地におけるCO2吸収量の可視化です。

見沼田圃の農地におけるCO2吸収量の可視化は、公有地等の農地の土壌を採取し炭素量を測定し、その結果を可視化するとのことでした。

講演会のあと、さいたま市により菜の花教室農地で炭素固定量の測定作業が行われました。

私たちのナタネ栽培では、残渣はすべて畑に漉き込んでいます。収穫後7月から9



▲さいたま市出前講座「見沼田圃のグリーンインフラの取り組みを見てみよう！」より

MINUMA EVENT INFORMATION

2025年度 年末農産物即売会について

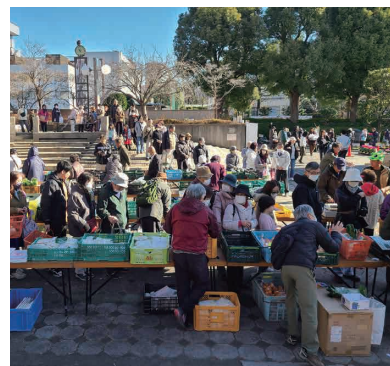
2025年12月26日(金)

10:00 ~ 13:00 (雨天決行) さいたま市役所東側ひろば

さいたま市内の青年農業者さんが育てた、正月用の新鮮な農産物の即売会を開催します。人気のあるシクラメン等の季節の花や、日頃見かけない珍しい農産物など、色とりどりに販売されます。おせち料理での縁起物、さいたま市特産の「くわい」も販売します。また、農家さんが揃ったのし餅も販売の予定です。



▲農産物即売会行列



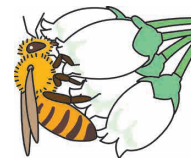
▲新鮮野菜の販売

人と環境にやさしい講演会 「都市近郊の養蜂について」

2026年2月4日(火) 15:00

講師：養蜂家 豊田俊明さん

場所：下落合コミュニティセンター 4階 第2集会室



要旨：都市近郊の蜜源は意外に豊かです。蜜蜂は半径3km程の範囲を巡り、蜜・花粉を集めるので、公園の桜、民家の柿、蜜柑や枇杷、学校の秋桜・向日葵等は良い蜜源です。蜜蜂の群の構成は、女王蜂1匹、働き蜂2万匹(雌蜂)、雄蜂(春先の繁殖期のみ)に生まれ、蜜は集めないです。点検は、最低でも2週間に1回行います。点検のポイントは女王蜂の産卵の確認、卵や幼虫の比率は正常か、ダニは増えていない

か等です。作業時には、防護服を着用し、燻煙器で煙を掛けます。

蜜蜂をめぐる環境と養蜂の自然の営みと仕組みについて講演します。

申込み先：見沼たんぼ地域ガイドクラブ 黒澤
e-mail : kurosawa@peach.ocn.ne.jp
FAX.048-687-5543

オーガニック・ハーベスト丸山

30品目に上る野菜作りと幅広い農業経営

農地は自宅周辺の市街地内と見沼区・浦和区・緑区の見沼たんぼ内に28箇所。丸山さん夫婦と職員・パート併せて10名程で、露地野菜約30品目を



▲丸山夫婦(中央)と職員



▲子供達の収穫風景

売場展示▶



生産しブロッコリー・レタス・白菜・さつまいも・里芋他をヤオコー、マルエツ、マミーマート、高島屋、そごう、またJA直売所、各地マルシェ、学校給食そして各種イベントでも販売しています。

そして小学校チャレンジスクールや中学生・高校生の農業体験も指導しています。例えば9月にジャガイモ植付けや秋野菜の苗を育て、11～12月には収穫まつりも開催しています。また20～30代の若者が農業に志を持ち仲間と共に楽しく儲かる農業を目指すこともサポートし、巣立ったメンバーも増えてきています。

同社は2006年に地産地消型農業を目指し設立し、2023年に株式会社として法人化。食育・環境・コミュニケーション・命の大

切さを経営理念とし、楽しく儲かる農業を目指しています。「野菜作りは米作りや果樹栽培と比べ、楽で楽しい」とご夫婦揃って話されていますが、遊休農地を大量に借入し安定した生産を続けて来た道のりには幾多の困難もあったのでは。Hope Lights Our Way (農業で希望の道を照らしていきたい)を合言葉に頑張っています。

見沼区蓮沼1694 TEL.048-687-0140

現在の耕作地は約7haで28箇所



見沼区片柳1-158-2 TEL.048-687-3722

定休:火曜日

見沼たんぼの中心にある「みどり直売所」

17年前から続く老舗直売所

さいたま市緑区南部領辻の「緑のトラスト1号地」の前にある「みどり直売所」は、17年ほど前、故厚沢純子さんが地域のお仲間の皆さんたちと開設した直売所です。市街化調整区域のため、店舗が作れないとのことで、トラックの荷台を店舗にして始めた直売所です。(創設時のご苦労がしのばれます。)

新鮮さが魅力の野菜・花など

直売所には新鮮な野菜、果実、米、仏花、草花など四季折々の商品が並びます。店の前には、テーブルと椅子が用意されています。直売所の皆さんのお人柄か、お客様との会話が弾み、いつもフレンドリーな雰囲気が醸し出されたコミュニティの場としても親しまれています。

見沼の豊かな景色も楽しみ

春には直売所の前の見沼代用水の桜、夏は緑のトラスト1号地の森、そして秋には見沼たんぼを横



切る並木道のメタセコイヤの紅葉など、四季折々の風景の移ろいも楽しみます。

見沼たんぼを散策がてら中心地にある「みどり直売所」を訪れて見てはいかがでしょうか。

緑区辻地内 営業日:毎週土・日曜日(午前中)

バス:東浦和駅からさいたま東営業所行き バス停:総持院下車3分

見沼のお店紹介!

カフェ・ロルト(l'orto)

～地元野菜を生かしたオリジナルカレーで人気のカフェ

店名のロルトはイタリア語で野菜畑。そして野菜を美味しく食べる為に試行錯誤を重ねたスパイスカレーは老若男女誰にでも合うマイルドな味付けで、ネットでも高い評価を得ています。

南インドの「アチャール」と呼ばれるスパイスを絡めた漬物や、日本ならではのスパイスを使用した惣菜も用意しています。見沼・膝子の農家さんから直接預かった野菜をたっぷり使ったメニューや「規格外野菜」を使うことでフードロス問題にも取り組んでいます。冬場は見沼のくわいメニューも加わります。

オムチーズキーマカレー・バターチキンカレーの他にも随時特別メニューも開発、クレープ・デザート・コーヒーも自慢です。

緑区芝原1-5-16 イーストパークURAWA 1階
氷川女體神社から徒歩10分の住宅街にあり、東浦和駅からバス10分「芝原小学校」、浦和美園駅からバス12分「芝原二丁目」下車。

営業:不定休 11:00～19:00

予約専用TEL.050-3554-1516

※営業はInstagramのストーリーズ等でご確認ください。



▲共同代表の大野さん



▲発酵黒胡麻カレー



LORTO.CAFE



▲店内ショーケース



▲農家の畑



▲ミニオンブランシュ

綺麗で多品種なシクラメンの生産販売の「猪原園芸」

交差点・宮ヶ塔西から近い道路沿いの大きな看板が目印です。50年以上にわたり、生産販売しています。父親からの2代目であり、30年前からシク



▲推奨シクラメン八重の「プティムーラン」

▲猪原シクラメン園

ラメン生産と販売を行い、現在、約50種の多品種を扱っており、昔ながらの在来種から新しい品種までお気に入りのお花を探すことができます。大きいサイズ8,000鉢とミニサイズ3,000鉢です。特に、今年の推薦品種は、紫系のフチドリの「ミニオンブランシュ」(Mignon Blanche)と八重でピンク系の「プティムーラン」です。埼玉県が育成した芳香シクラメンの販売も行っています。今年は長い猛暑で花咲きが遅かったが、現在は順調にきています。暑さ対策は品種改良等で対応しています。

シクラメン関連の施設は、9棟のビニールハウスを含め、約800坪です。リピーターや口コミによる顧客が多く、贈答品や宅急便もかなりの割合です。ご夫婦と母親、パートの方でおこなっています。奥さんは、シクラメンの品質管理が上手であり、シクラメンの栽培にも長けています。

見沼区東宮下830

ご注文・お問い合わせTEL.048-683-2672

営業日:11月10日～12月31日

取扱品目:シクラメン8,000鉢(6号～8号鉢)、ミニシクラメン3,000鉢(2.5号～4号鉢)

見沼区堀崎町911-1

営業日:月～木10:00～18:00(ランチ11:00～14:00)

予約・問い合わせ:インスタグラムから



◀ランチプレート

▲外観



◀店内

見沼たんぼの中心地域 高速道路「2ルート案」への意見募集が開始

「オープンハウスミーティング」・「意見交換会」・「アンケート調査」

大宮国道工事事務所:国土交通省関東地方整備局ホームページ内で①「埼玉の道づくり」、②「核都市広域幹線道路ポータルサイト」を検索してみてください。

1.オープンハウスミーティング(パネル展示と説明)

2025年11月～2026年3月までの開催場所と日程一覧ホームページで案内中

2.ワークショップ(グループでの意見交換会)大宮国道工事事務所のホームページで募集中 12/23まで、参加は「抽選」

①1/28 片柳コミセン ②1/30 いわつきふれ合いプラザ ③2/2 浦和区・和楽荘

3.アンケート調査

2026年3月31日までホームページでアンケート実施中

4.調査結果の「とりまとめ」

調査が3月末で調査なのでとりまとめは、2026年度5月以降か



高速道路計画に市民団体などから出されている主な意見(参考)

1. 道路事業の必要性

① 浦和インターから1.8km、2分の高畑陸橋付近の新しいインターチェンジは、近すぎて危険で無駄。

② 新見沼大橋・有料橋の方も2026年には無料化する。新大宮バイパスまで無料でつながり、東西方向で交通渋滞の問題はなくなる。高速道路事業の必要性が分からない。

2. 道路事業の時間軸

① 完成が推計で30年後となると、その時の人口がどうなっているのか、渋滞が発生しているのか、費用対効果を踏まえ必要性を考えてほしい。

② 内閣府の調査によれば、都三県の2050年に約3割の自家用車が減るという推計がでている。放置しておいても渋滞は緩和される。

3. 2ルート帯の問題点

(1) 南側ルートの問題点

① 南側ルートでは、学校が2か所(野田小学校、浦和東高校)があり、高速道路の通過は、学校の教育環境を悪化させる。

5.ルートの「決定時期」は『未定』とのこと。(新聞報道)

6.11/5のさいたま市長等の「要望」では、「1ルートに絞ること」を要請

7.市民の皆さん、可能な方法で「意見の表明」をしてください。

② 南側ルートには、『萬年寺・照光寺』など、地域の歴史にとって重要な社寺があり、その風致環境の保全が必要。

(2) 北側ルートの問題点

① 北側ルートには、消防署や大きな病院、歴史的建造物(旧坂東家住宅)など地域の暮らし・環境にとって重要な施設であり、この除却・移転は好ましくない。

② 北側ルートには、競馬場の馬のトレーニングセンターがあり、馬は神経質な動物であるため、全面移転が必要となるが、移転費用が大きく発生する。

4. 道路構造の問題について

① 既存の片側1車線の高速埼玉線の道路に、新設する片側2車線の道路を接続したときに、見沼出口IC付近で交通渋滞が発生する。

② 見沼出口から与野ジャンクションまでの地下部分を片側2車線に拡幅できるのか。車線を拡幅したときの費用の想定はあるのか。

5. 環境問題

① 見沼地区には、135か所の斜面林が残っているが、南側ルートには、斜面林に該当するところが多数(11か所)ある。道路が開通する場合、見沼たんぼの斜面林の1割がなくなってしまう。

② 北側ルートは見沼自然公園を通過し、公園には、さいたま市で絶滅したとされる絶滅危惧種の藻類が発見されている。

◀片柳地区・見山の斜面林



今号に掲載された、見沼たんぼ地域のお米・野菜・果物・花木 直売所等マップ



市民が応援する見沼たんぼ地域での人と環境にやさしい都市農業の広報誌
「見沼・旬彩」2025-26年 冬号 vol.35

発行：未来遺産・見沼たんぼプロジェクト推進委員会

<https://minuma-miraiisan.jp> e-mail: minuma@minuma-miraiisan.jp

バックナンバーはホームページよりご覧になれます。

編集：見沼農業・応援連携部会／デザイン・印刷：アームズ

発行日：2025年12月10日

We
Love
Minuma



この見沼農業の応援連携・季刊誌「見沼・旬彩」は、公益信託 武蔵野銀行みどりの基金様、公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟様からの助成金で印刷・発行しております。